

Platys

[プラティス]

KDU COMMUNICATION MAGAZINE

Vol.07
2024.4

広報誌タイトル
「Platys」の由来

医聖ヒポクラテスは、紀元前にギリシャのコス島のプラタナス（スズカケノキ）の木陰で弟子たちに医学・医術、医の倫理を説いたといわれ、本学にはプラタナスの木とコス島から運んだ巨石があります。プラタナスの語源はギリシャ語の「platys（広い）」であり、大きな葉や広がる枝に由来します。学生たちの豊かな成長と、九州歯科大学の繁栄を願い、「Platys」と命名しました。

特集1 【対談／ランシット大学学生 × 九州歯科大学学生】

Rangsit大学の先生・学生に聴く

特集2 【クラブの主将にインタビュー】

第55回 全日本歯科学生 総合体育大会で総合優勝

【文化部紹介】

学生アンバサダーが自身の所属クラブを紹介

- 第71回 歯大祭が開催されました
- 令和5年度 第72回卒業式を挙行了しました



Rangsit大学の先生・学生に聴く。

今回、「国際交流プログラム」の一貫として、本学を訪問されたタイRangsit大学と本学の教員および学生の対談を企画しました。英語でのコミュニケーションに緊張していましたが、次第に打ち解け、本学を訪れての感想やタイにおける歯学教育などについて興味深いお話を聞くことができました。



● 日本への短期留学を希望した理由をお聞かせください。

● 現在、タイは高齢社会になっています。以前より高齢化が進んでいる日本では、どのように高齢者医療へ対応しているのか興味を持ち、知識を得たいと考えました。

● 日本に来てみて、どんな印象ですか？

● 街が綺麗な印象です。私は温泉が好きで、特に北海道はスキーやスノーボードができ、食べ物も美味しいので大好きです。

● 私は九州歯科大学大学院に留学生として在籍していますが、日本は技術大国という印象があるので、日本の文化や伝統に触れたいと考えています。

● 素晴らしいと思うことが2点あります。まずはインフラで、電気や交通網などの多くが高いレベルで整備されています。もう一つはゴミの分別システムで、プラスチックやペットボトルなど細かく分別され、環境にとって大変良いことだと思います。

● 文化の違いなどで戸惑ったことや驚いたことはありますか？

● 鉄道ですね。あとバスが沢山あって、九州歯科大学まで来るのに最初の数日は迷いました。(笑)

● 公共空間が綺麗なことに驚きました。道にごみ箱がないので、日本ではみんな携帯用のごみ箱を持ち歩いているのかな?と思ってしまいます。

● 九州歯科大学、そして附属病院をご覧になってどう思われましたか？

● 最先端の技術を備えており、また病院も大きく、患者さんや働いているスタッフにとっても良い施設であると感じました。

● 研究室も広く、学生が多くの場所で学べることが、素晴らしいと感じました。

● なぜ、歯科医師になろうと思い、歯学科に進学したのですか？

● 高齢化社会において、医療分野で働くことに興味を持っていました。歯科治療が終わった時に患者さんの笑顔が見られることはこの仕事の魅力だと思います。

● 歯科医師は非常に実践的な職業で、自分自身の手で多くの患者さんにさまざまな治療を行えるところに興味を持ちました。

Rangsit大学 歯学部	九州歯科大学
● Pirat Karntiang先生	● 共通基盤教育部門 海寶康臣先生
● Aranda Kittithawornさん	● 生体材料学分野 池田 弘先生
● Chananchita Chumchandraさん	● 大学院歯学研究科2年生
● Jennipit Chaiyotさん	● Chutipa Sirithienthonさん
● Passawuth Pattananuwatさん	● 歯学科5年生 塚本 真帆さん
	● 歯学科5年生 谷口 璃桜さん
	● 歯学科5年生 本田 沙穂さん

ランシット大学 (Rangsit University)
1986年に創立されたタイ王国の私立大学です。医療系や理工系など5つの学群から成り、学士号89種、修士号39種、博士号15種と合計143種の学位を授与しています。また、約30ヵ国140以上の大学・専門機関と国際協力をしており、2015年から九州歯科大学と大学間学術交流協定を締結しています。

● ランシット大学歯学部の教育カリキュラムはどのようなものですか？

● 6年制で、2年単位で3段階に区分されています。第1段階は基礎科学や解剖学等の前臨床科目を学び、第2段階では外科的治療、補綴学等の臨床科目を学びます。制度上、第1段階を4年以内、第2段階を8年以内、第3段階を12年以上に修了する必要があります。学生は各段階で、学習を継続する力があるか、将来歯科医師になる見込みがあるかの選別を受けます。こうしたカリキュラムですが、途中で進路変更を選択することも可能です。治療に必要な手技や、全身に関する知識を効率的に身につけることができない学生は、進路変更をすることもあります。また、核となる主要科目は九州歯科大学と概ね同じだと思います。

● 日本の歯学教育も6年制です。臨床実習前の4年次後期に、2つの大きな試験があります。それらは、知識・問題解決能力についてコンピューターを用いて評価する客観試験 (CBT ※1) と、態度・診察技能の試験 (OSCE ※2) です。タイの歯学教育においても、同じような試験はありますか？

● タイでも同様に4年次終了後に2つの国家試験があります。科目毎に実技と知識の試験があり、5年次に進むためには、両方の試験に合格する必要があります。我々が直面している問題は、頭は良いのにハンドスキルが極めて乏しい学生がいることです。これは歯科医師として大きな問題です。そういう学生を早く見つけて、彼らに他の道を提案しようとしているのです。

● とても厳しいですね。日本において4年次生で受験するOSCEでは、技能に加えて問題解決能力や診察に対する姿勢も評価されます。

● 確かに重要なポイントですね。私たちが求めるのは良い技術、知識、そして精神を持った歯科医師ですね。

● 他学部の学生との交流はありますか？

● 1年生では、他学部の学生とスポーツなどをやる機会がありますが、それ以外は学業がハードで、他学部の学生と交流する時間はあまりありません。

● 歯科治療に他学部の学生が来ることはありますか？

● 部活動はされていますか？

● 私達の大学には部活動はありませんが、放課後に友人とバドミントンやランニングをしたり、カフェに行くことはあります。



● ランシット大学の皆さんは、英語を流暢に話せますね。どのように英語を勉強していますか？

● 大学の講義は英語で行われ、スライドや教科書も英語表記です。入学後2年間は英語の授業が開講されます。またタイでは、子供が英語で話せることを望む親が多く、幼いころから英語を学びます。

● タイでも歯科医師国家試験があると思いますが、難しいですか？ 日本の歯科医師国家試験の合格率は全体で63.5%と難しいです。九州歯科大学は、7割〜8割の合格率を維持しています (新卒・既卒の合計)。

● はい、難しいです。ランシット大学の場合、プレライセンス試験を行っています。国家試験を受けるには、まずプレライセンス試験に合格する必要があります。合格率は20%程度と非常に難しいです。プレライセンス試験は年2回実施されるので、不合格の学生は再度受験します。国家試験よりプレライセンス試験の方が難しいです。

● 卒業後は、専門の診療科に進みたいですか？

● 卒業後は、小児歯科学や歯周病学や補綴学など、さまざまな分野から専門分野を選択することができるので、1〜2年間働いて自分にあった専門分野に進みたいと考えています。

● 矯正学を学びたいと考えています。一般歯科医として、さまざまな治療を行うのはあまり好きではないので…(笑)

● まず一般開業医として働き、その後は、私は子供が好きなので、小児歯科医になることを考えています。

● 私は地方の公立病院で働くことを希望しています。口腔内科に関するいろいろと学んで、診察や患者の管理を身につけたいと思います。

● 博士号取得後はタイに戻り、教員としてのキャリアを積む予定です。自身の知識や経験を次の世代に伝えることに情熱を注ぎたいです。

● Pirat先生にお聞きします。大学卒業後にどんな経験を積まれ、九州歯科大学の大学院に進まれたのでしょうか？ また、大学院に進学した理由は何ですか？

● 一般歯科医として、クリニックで任される口腔外科治療や小児歯科治療などさまざまな診療経験を通じて、修復治療に興味があることに気づきました。そこで修復治療に関する修士号を取得し、大学教員として勤務しましたが、学術分野でのさらなる活躍を目指して、大学院への進学を決めました。九州歯科大学には生体材料学分野があり Dr.Hiroshi (池田准教授) は、私が興味を持っているセラミックやレジンに関する研究を展開しています。そこで私はセラミックや歯科用セメントに関する研究で博士号を取得することができました。振り返ると良い選択をしたと実感しています。



● Chutipa先生が留学先に九州歯科大学を選んだ理由は何ですか？ また、今の大学院での研究生生活はどんな感じですか？

● 歯科に関する特定の分野の研究に取り組んでみたいと考え、微生物に関する専門的な研究ができる九州歯科大学感染分子生物学分野への進学を決めました。現在、自身の研究課題に関して、インターネットでの情報収集や抄読をしながら、実験とデータ解析を行っています。細菌を用いた研究を行っていますが、大変興味深いです。また、研究室の大学院生と一緒にセミナーや会議にも参加しています。研究と他の業務のバランスをとることは難しいですが、幸運にもサポートしてくれる先生がいます。

● 日本には歯科衛生士という国家資格があり、臨床現場で歯科医師と仕事をします。歯科衛生士は、口腔衛生指導、スクリーング、口腔筋機能療法、アシスタント業務を行います。九州歯科大学には口腔保健学科があり、歯科衛生士の資格を取るためのカリキュラムが組まれています。タイには、歯科衛生士という職業はありますか？

● タイでは以前、特に地方において、歯科医師が不足していました。そのため、政府主催のプログラムで、歯科衛生士が2年間で充填や抜歯など歯科医師が行う主な治療を簡単に学び、歯科医師の指導のもと、公立の病院で働いていました。しかし、現在は歯科医師の数が増えたため、歯科衛生士の役割は治療から予防へとシフトし、う蝕(※3)や歯周病などの口腔疾患のリスクを減らすことが中心となってきています。

● 高齢化が進む日本では、歯科医師は健康な歯を残すことに注力しています。具体的には小児期であればう蝕予防、成人期からの歯周病予防、高齢期には80歳で20本の健康な歯を残すことに取り組んでいます。タイで問題となっている口腔疾患は何ですか？

● タイにおける最も一般的な口腔疾患はう蝕だと思います。多くの方がう蝕の治療を受けています。また、まだ一般的ではありませんが、死亡率も高く、治療に難渋する口腔がんも問題になっていると考えています。

● 最後に、この対談を通しての感想を聞かせてください。

● 私は4年間、九州歯科大学の大学院に在学していましたが、いつも皆さんのウェルカムな様子に楽しいパーティーに参加しているような気分になります(笑)。学生たちも九州歯科大学での講義や親睦会、施設の見学を通じて、心地良い充実した時間を過ごしてくれたら嬉しいです。

● 日本の文化や人々に感謝を受けました。皆さん、非常に歓迎してくれて、親切で、さらにおきれいです(笑)。ありがとうございました。



※1/CBTとは…「Computer-Based Testing」の略で、各大学独自の試験ではなく、全国共通の試験です。

※3/う蝕とは…いわゆる虫歯のことです。歯の硬組織の表面が細菌の酸産生により崩壊され、エナメル質やセメント質から象牙質へと進行し、実質欠損を形成する代表的な歯の疾患です。

※2/OSCEとは…コミュニケーション能力や正確な診断および処置など、臨床実習において必要とされる「技能と態度」のための共用試験です。

対談を終えて



歯学科5年
谷口 璃桜

私たちが8月にタイを訪れて以来、タイの学生とはSNSでの交流を続けてきましたが、3ヶ月ぶりに再会し、本学での対談が実現できたことにはやはり特別な感動がありました。

タイの学生は自立心が強く、とても好奇心が旺盛で、以前に来日の経験のある人もいました。今回の本学での短期留学を通して、さらに日本の魅力を感じてもらえたら、そしてもっと日本のことを知ってもらえたら嬉しいなと思いました。対談では、タイの学生たちの圧倒的に高い語学力に大いに刺激を受けました。またタイの大学と本学、双方の良いところや違いを確認することで、さらに視野を広げることができました。

対談を通して、タイと日本の大学や歯科医師に関する制度の違い、タイで問題となっている口腔疾患について学ぶことができました。タイでは、歯科医師国家試験は筆記試験だけでなく実技試験も含まれていることや、歯科衛生士という国家資格はなく、歯科医師が業務を行うことが印象的でした。国の社会背景や文化、経済状況が歯科医療にも影響を与えていることに気づき、常に日本が基準ではなく異文化への理解力が重要であることを認識しました。

また、学生の高い英会話能力に刺激を受け、自身の学習へのモチベーションが高まりました。このような貴重な経験を提供して下さったことに感謝の気持ちを忘れず、今後の学習に活かしていきたいと思っています。



歯学科5年
本田 沙穂

同じ歯学の道を志すタイの学生とお互いの国の歯科事情や教育について意見交換をする経験は、私にとって見聞を広める貴重な機会でした。日本の歯科の課題や歯学生としての姿勢を、タイのそれらと比較することで、客観的に私の歯学生としての在り方を見つめ直すことができました。また、彼らの夢や熱心な学習スタイルを聞くことで良い刺激を得られ、臨床にあがる上で留意しておきたいことが明確になり、来年から始まる病院実習に生かしたいと感じました。夏に参加した海外派遣プログラムと今回の対談を通して、歯学や英語への学習意欲がさらに高まったこと、そして歯学を学ぶ心強い友達や先生方との国境を越えた繋がりを得たことが今後の人生における財産です。



歯学科5年
塚本 真帆

Message

to students



共通基盤教育部門
講師
海寶 康臣

I truly appreciate your sincere and inspiring words in the gathering held at Kyushu Dental University on November 24, 2023. Fortunately, during the meeting, three fourth-year students at the university realized that you were deeply engaged in your studies at Rangsit University to acquire knowledge and skills in dentistry, aiming to pass the national dental practitioner examination in Thailand. The three students also must work hard so that they can pass the equivalent examination in Japan. I want them to recall your industriousness when they encounter difficulties while learning dentistry and to motivate themselves. I believe that your diligence empowers them to overcome challenges. It was also fortunate that the students had a lot to learn in terms of communication. For instance, they learned from your way of answering questions how good speakers elaborate when responding to questions. I hope that what the three aspiring dentists realized and learned during the gathering deepens mutual understanding and friendship between you and them, having a beneficial influence on each other.



歯学科 助教
黒石 加代子

普段の講義室の中で見かける学生たちの様子とは異なり、キラキラとした面持ちの積極的な姿を見ることができました。学生たちの素敵な場面に立ち会うことができ、教員として冥利に尽きました。



タイ・台湾 研修レポート

Thailand / Taiwan training report



Thailand (タイ)



本校の海外短期派遣プログラムは、私が大学に入学した当初からの憧れであり、目標でした。福岡空港から飛行機で5時間、時差2時間のタイに初めて降り立った時は、想像の何倍も都会的で発展していることに驚きました。また、その印象とは対照的に、歴史的史跡や寺院などを訪れた時には、とても厳肅な気持ちになりました。タイの大学の見学や学生達との交流は、楽しい中にも新鮮な刺激と緊張感があり、すべての瞬間が貴重な体験、素晴らしい思い出となりました。今後も様々なシーンにおいて、この経験を活かし、グローバルな視点で物事を考えていきたいと思っています。

歯学科5年
谷口 璃桜



教員からの一言

4年ぶりに実施した7泊8日の歯学科海外短期派遣プログラムで、歯学科4年生3名と教員2名がタイの私立大学・国立大学の歯学部を訪問しました。附属病院の診療見学と歯学教育の見学を通じ、日本と異なる歯学教育のアプローチに触れました。タイの教員や学生との交流から、文化と教育の違いを深く理解しました。本学学生たちは現地の教員や学生への積極的に質問で自らの視野を広げ、海外大学院進学への興味を深めました。"Think globally, act locally."を体現する本プログラムは、本学学生にグローバルな思考を育む貴重な機会となりました。

歯学科 准教授 守下 昌輝

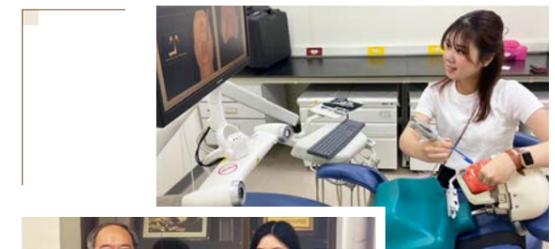


Taiwan (台湾)



今回の経験は、歯科衛生士になるというモチベーションアップに繋がりました。歯科衛生士という国家資格の導入が検討されている台湾に行ったことで、歯科衛生士が求められている存在だと再認識することができました。歯科衛生士の役割、必要性について多くの人に周知できるよう、残りの大学生活に励みたいと思います。また、日本と台湾の歯科医療を比べることで、新たな学びや、いままでとは違った視点で物事を考えることに繋がり、他国の歯科医療についても興味がわきました。台湾の学生たちは、私たちの拙い英語でも一生懸命耳を傾けてくれて、とても親切にしてくれて感謝の思いでいっぱいです。忘れられない経験となりました。

口腔保健学科4年
古西 玲摩・松本 爽花



教員からの一言

口腔保健学科では2015年から台湾の大学に学生を派遣しており、この度COVID-19の影響緩和を受け、3年ぶりに派遣された学生の引率を担当しました。学生たちは、高雄医学大学と台北医学大学で講義、実習、病院の見学、教員や学生との交流を行いました。また、高齢者施設や小学校の見学を通じて現地の地域医療と公衆衛生を学びました。さらに、英語で本学の紹介と日本の歯科衛生士制度についてプレゼンテーションを行いました。積極的な国際交流を通じて、歯科衛生士への熱意、国内外の医療制度への関心、英語学習の意欲を高めることができました。学生たちの今後の活躍を期待しています。

口腔保健学科 助教 山口 紫乃



第55回 全日本歯科学生 総合体育大会 総合優勝を果たしました!

優勝クラブの主将にインタビュー! 熱い大会の舞台裏を語っていただきました!

コロナ禍で中止されていた 全日本歯科学生総合体育大会 が4年ぶりに開催され、全国各地で熱戦が繰り広げられました。その結果、コロナ前の第51回大会に引続き、本学が見事に総合優勝を果たしました。そこで、各部門で優勝を果たしたクラブの主将に話を聞きました。



サッカー部

主将 三善 光

soccer

4年ぶりのオールデンタルに 対する思いをお聞かせください

私自身、デンタルの経験が一度しかないため、どういった試合運びになるのか分かりませんでした。その中で福歯杯や練習試合を通して、多くのパターンを想定したチーム作りを行ってきました。そして38年間デンタルでは優勝できていないため、それだけ大きな壁のあるデンタル優勝を成し遂げてやろうという思いで挑みました。



プレイヤー23名、マネージャー10名で活動中!

今回の大会で一番記憶に残っているエピソードは?

準々決勝の日本歯科大学との試合でPK戦までもつれ込み、10-9で勝利を収めたことが最も記憶に残っています。誰もPKを外さない中で、10本目の日本歯科大学のシュートをキーパーが止めて勝ちました。PK戦が得意ではないにもかかわらず勝ったこの試合は本当に大きなものだと思います。



弓道部

主将 富田 椋裕

kyudo

今回の大会で一番 記憶に残っているエピソードは?

大会で印象的だったのは、矢声という声を出す応援です。一般的な静かで厳かな雰囲気との違い、大学弓道では大きい矢声を出して応援するのですが感染予防のため矢声は禁止となっていました。今大会では、その規制が緩和され、様々な大学が色んな矢声を飛ばしているのがとても記憶に残っています。



部員22名で活動しています!!

今後の意気込みや目標は?

次のオールデンタルは九州歯科大学が主管ですので、大会運営など大変なことも多いと思いますが、連覇をめざして練習の一本一本を大切に引いていこうと思います。また、今後も”中り”だけでなく”正射必中”をめざして弓道に取り組んでいきます。



バスケットボール部

主将 濱寄 裕介

basketball

オールデンタルで 優勝した感想は?

入学して初めてのオールデンタルでしたが、優勝することが出来るととても嬉しかったです。初めてのオールデンタルということで、不安な気持ちが大きかったのですが、部員全員が団結することが出来たからこの結果だと思います。応援して下さったOB・OGの先生方や周りの方々に厚く感謝申し上げます。



部員36人 楽しくやっています!

今回の大会で一番記憶に残っているエピソードは?

総合優勝することが出来たのは6年生のおかげです。その6年生が準々決勝、準決勝、決勝と試合に勝つ毎に涙を流していたことがとても記憶に残っています。僕たちを引っ張ってきてくれた6年生の最後の大会に掛ける思いが伝わってきて、自分も頑張ろうと思えました。これからはその思いを自分たちが引き継いでいきたいです。



バドミントン部

主将 山本 隆

badminton

総合優勝した感想は?

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催ということで現役部員が初めてのオールデンタルであったため初めは不安なこともありましたが、男女総合優勝(女子団体優勝、男子団体準優勝)という結果を収めることができたことを率直に嬉しく思います。そして、本学の第55回全日本歯科学生総合体育大会の総合優勝に貢献することができ大変光栄に思います。



男子11名、女子15名で仲良く活動しています!

これまで活動してきて苦労したことは?

部員数26人の中で競技経験者と大学から始めた部員がいるため、それを考慮して練習メニューを考えるのは大変でした。しかし、今大会で多くの大学から始めた部員が初勝利をおさめ、練習の成果を発揮しているのを目にして大変嬉しく思いました。



文化紹介

オールデンタルで活躍した体育会に加え、九州歯科大学には多くの文化会クラブがあり、個性豊かなメンバーがさまざまな活動を行い、大学生活をより豊かにしています。学生自身に所属するクラブについて紹介してもらいました。

むしばくらぶ

Instagramも
チェックしてください!



むしばくらぶでは学内の活動だけでなく、外部でのボランティアやイベントに参加して横と縦の繋がりを深めることができます。保育園・老人ホームでのブラッシング指導の実施、ボランティアを通して他大学と交流を深めています。去年は八幡東区のフードバンクにוות、食品ロスを減らす取り組みやそれに携わる方々の想いを知ることができました。コロナ禍が落ち着きを取り戻しつつある昨今、活動体制も少しずつ戻していければと思っています! Instagramも開設しているので、気になる方はぜひ見に来てください!



@MUSHIBA_CLUB

歯学科5年 佐野 華香

写真部

写真を撮りたい人
誰でも大大大歓迎!



こんにちは! 私たち写真部は、主に2つの活動を行っています!

1つ目はルポです。「ルポ」とは「ルポルターージュ」の略で、探訪を意味するフランス語が語源です。我が写真部では写真を撮るために、綺麗な景色の場所やイベントへ、縦割りの班で行きます! 昨年はルポの一貫として、部旅行で糸島に行きました!! 先輩方や同期・後輩たちと交流を深められる良い機会です!

2つ目はフォトコンです。学祭で展示し、皆からコメントがもらえます! 他にも学内行事の撮影も、写真部のお仕事の1つです! 本気で写真を撮りたい人も、ゆるーく映える写真を撮りたい人も、大大大歓迎です!

歯学科3年 金田 彩花

軽音楽部

ROMのライブに
是非お越しください!



軽音楽部ROMでは主に月に1~2回ライブを行っています! バンド活動を通して、部員全員の仲が良いので「ROMは家族」という言葉まであるほどです。他大学の軽音楽部との交流も活発で、合同ライブも多く開催しています。バンド活動以外に、週に1回部員全員で集まり、ご飯を食べに行ったり、海に遊びに行ったり、花火、球技大会、バーベキュー、肝試しなどのイベントを計画しています。個性豊かで面白い部員がたくさんいるので飽きることなく楽しい学校生活を送ることができます!

歯学科3年 阿部 美月

ブルーノーツ

11月16(土)に
定期演奏会があります!



私たちBLUENOTESは主にJAZZを演奏しています! 今は女子20人、男子12人の計32人で練習に励んでいます! 主な活動内容は他大学とJAZZのフェスをしたり、高見神社で演奏したり、北九州芸術劇場で定期演奏会を行ったりしています! 練習ばかりではなく…泊まりがけの部旅行や部飯で程よく息抜きしています! BLUENOTESのいいところはOB・OGの先生・先輩から後輩までみんな仲良しなところです! 次回の定期演奏会を、2024年11月16日(土)に行いますのでぜひ聴きにきてください!

歯学科4年 大川 小百合

Close-up

大学行事のお知らせ

令和5年 10月21日(土)・22日(日) 第71回歯大祭が開催されました

第71回歯大祭は「笑う門には福来る」をテーマに歯大祭実行委員会の主催で開催され、ステージ企画や作品展示、各部活動による模擬店、予防歯科の企画等が行われました。コロナの5類移行後における初めての歯大祭では、在学生をはじめ学外の方も訪れ、多くの笑顔が見られました。また、高校生・受験生を対象とした「学生相談会」を同時開催し、大学生活や入学試験に向けた勉強方法などについての相談に現役大学生が対応しました。

歯大祭実行委員長の一言



第71回歯大祭では、大学のOB・OGの方々、職員の方々、地域の方々、先輩後輩のみなさん、そして73期の仲間、本当に多くの方の支えの下で盛大に開催することが出来ました。「九歯大の学祭は面白い!」多くの人に伝わることが出来たのではないかと思います。

第71回歯大祭実行委員長 西山 昂毅



司会を務めました

かわいい?

学祭メニューも格別!

学生相談会の様子

体験イベントも大盛況でした。

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

8月7日(月)～9日(水)

キャンパスライフ相談会を実施しました



高校生を対象に、オンライン形式で個別相談会を実施しました。相談会には、本学の学生と教員が対応し、大学の授業や学生生活についての質問にお答えしました。3日間で38名の高校生が参加され、充実した相談会となりました。

9月29日(金)・10月23日(月)

筑紫女学園高等学校・福岡県立小倉高等学校の皆さんが本学のキャンパスを訪問しました

9月29日に筑紫女学園高等学校から生徒8名と教員5名、10月23日に福岡県立小倉高等学校から生徒11名と教員1名の皆さんに、高校別キャンパス訪問にご参加いただきました。当日は模擬実習や施設見学、模擬講義等を実施しました。



▲診療科を見学する筑紫女学園高等学校の皆さん ▲模擬実習に参加する小倉高等学校の皆さん

キャンパス訪問についてご興味のある方は、ホームページを確認の上ご連絡ください。



10月5日(木)

体育祭が開催されました

清水キャンパスのグラウンドにて、体育祭実行委員会の主催で、体育祭が開催されました。学年対抗で行われた大縄跳び、ムカデ競争では各学年が団結力を競い、その後の自治会パレード、部活動対抗リレーでは、部活動生がそれぞれのユニフォームなどを着用して参加しました。



11月14日(火)

「学びシティ!北九州 意見交換会&学生発表会」に本学の学長と学生代表が参加しました



北九州市内10大学と行政による意見交換会「学びシティ!北九州」(毎日新聞社主催)がJR九州ステーションホテル小倉にて開催されました。第一部では、「若者から選ばれる北九州市を目指して」をテーマに、各大学の学長らが大学としての取組や課題、市への提言など、率直な意見を交わしました。第二部では、各大学の学生代表が、市内企業への就活体験記や、市内に若者を取り戻すための提案などを発表しました。本学からは、石川 凜さん(歯学科5年生)が「北九州市に若者を取り戻すために」をテーマに、企業誘致やスタートアップ企業の支援事業などについて提案を行いました。

11月17日(金)

研究発表会を開催しました

歯学科2年生の開講科目「研究室配属」では、学生が教員と研究活動を通じて、リサーチマインドを育むことを目的としています。ポスター発表による一次審査(29演題)を突破した上位8演題について、口頭発表を行い、熱い討論が繰り広げられました。厳正な審査の結果、「特殊刺激による毛包形成・発毛誘導におけるマウス系統間差異の検討」を発表した野口瑛允さん、中條真桜さん、平井杏佳さん(指導 分子情報生化学分野 古株教授)が最優秀賞に選出されました。



11月13日(月)～17日(金)

タイのシーナカリンウィロート大学の学生が本学を訪問しました

「国際交流プログラム」の一環として、海外協定大学であるタイ国シーナカリンウィロート大学(SWU)の学生4名が本学を訪問しました。本学附属病院の診療室見学を通じて、SWUと本学における臨床実習の違いだけでなく、日本の医療制度や治療技術についても学んでもらい、SWUの学生さんも大変満足していました。また、キャンパスツアーとして、実習施設、図書館、研究室を見学し、さらには学部4年生の実習に参加してもらうことで、本学の学生も積極的に英語でSWUの学生と交流を深めることができ、非常に有意義なプログラムになりました。



▲エックス線写真の分析の実習の様子 ▲修了証授与式の様子

11月15(水)～17日(金)

タイのランシット大学の学生が本学を訪問しました

「国際交流プログラム」の一環として、海外協定大学である、タイ国ランシット大学歯学部(教員1名、学生4名)が本学歯学科を訪問しました。新型コロナウイルスのため2019年以来4年ぶりの訪問となりました。基礎分野の研究室や基礎実習施設、附属病院での診療や学生の臨床実習の様子を見学しました。また、歯学科2年生の研究発表会に参加し、意見交換を行いました。歯学科4年生の実習では学生同士で話をしながら診断実習に参加して楽しい交流の時間を過ごしました。



▲ランシット大学の皆さん



▲附属病院の見学の様子

12月27日(水)～28日(木)

(オールデンタル)

第56回 全日本歯科学生総合体育大会 冬期ラグビーフットボール部門で本学が優勝を果たしました

熊谷スポーツ運動公園(埼玉県熊谷市)で開催されたラグビーフットボール部門大会で、本学が優勝を果たしました。27日の予選リーグを2戦2勝で突破し、28日の決勝トーナメントでは準々決勝で大阪歯科大学に勝利し、準決勝で日本大学松戸歯学部(松戸市)に勝利、決勝で九州大学歯学部(福岡市)に勝利し、優勝を果たしました。



3月11日(月)

学長賞授与式を執り行いました



九州歯科大学では、学業や課外活動等において優秀な成績を収めた学生並びに学生団体を学長賞として表彰しています。令和5年度の受賞者と受賞団体を紹介します。

●学業成績優秀者 (学年は令和5年度の学年)

歯学科6年	建部 姫羅々(たてべきらら)
口腔保健学科4年	錦織 望々香(にしこおり ののか)
歯学科4年	高野 茉依(たかの まい)
歯学科2年	小崎 颯太(こさき そうた)
口腔保健学科2年	寅田 純侖(とらた すみれ)

●課外活動成績優秀者

歯学科6年	南浦 章伸(みなみうら あきのぶ)	剣道部
歯学科3年	石野 愛佳(いしの まなか)	陸上部
歯学科1年	坂本 健太郎(さかもと けんたろう)	柔道部

●課外活動成績優秀団体

弓道部	バドミントン部
サッカー部	ラグビー部
バスケットボール部	

Close-up 大学行事のお知らせ **令和5年度 第72回歯学部卒業式・**
令和6年 3月12日(火) 第142回大学院学位記授与式を挙りました

令和5年度 九州歯科大学 第72回 歯学部卒業式・第142回 大学院学位記授与式を令和6年3月12日(火)に行いました。

令和5年度は歯学科86名、口腔保健学科26名、歯学研究科口腔保健学専攻3名、歯学研究科歯学専攻9名、合計124名が新たな門出を迎えました。

卒業証書・学位記は、建部姫羅々さん(歯学科)、錦織望々香さん(口腔保健学科)、山口紫乃さん(歯学研究科口腔保健学専攻)、CHIRADA DUSADEEMEELAPさん(歯学研究科歯学専攻)の四人が代表して、西原学長から授与されました。

歯学科の原園絢太さんの卒業生宣誓につづき、西原学長が卒業生に向け、本校で培った歯科医療に関する知識・技術・態度を基盤に、社会で成功していくことを願って式辞を述べました。

また、服部知事代理の江口副知事、香原県議会議長代理の佐々木県議会議長からご祝辞をいただき、在学生を代表して山川貴裕さんが送辞を述べ、最後に、卒業生を代表して、小浦裕也さん(歯学科)、工藤友莉さん(口腔保健学科)の二人が「これまでの学びをもとに、地域皆様の健康の一助となれますよう精進してまいります。」との決意を述べ閉会しました。



▲卒業証書・学位記を受け取る 歯学科代表 建部 姫羅々さん ▲卒業証書・学位記を受け取る 口腔保健学科代表 錦織 望々香さん ▲卒業生宣誓をする 原園 絢太さん



▲在学生送辞を述べる 歯学科 山川貴裕さん ▲卒業生謝辞代表 歯学科総代 小浦 裕也さん、口腔保健学科総代 工藤 友莉さん



卒業式の後には、謝恩会が華やかに開催されました

卒業式当日の夕刻より、リーガロイヤルホテルにて謝恩会が開催され、卒業生たちの門出を祝うべく多くの教員および職員が参加しました。

西原学長、栗野学部長、川元附属病院長の挨拶の後、村城後援会長より教職員への謝辞と保護者として学生への心温まる激励が述べられました。木尾副学長から卒業生へ激励をいただいた後、乾杯により和やかな祝宴が始まりました。

宴の中盤には、来賓の方々や教職員への抽選会があり、1等のアップルウォッチは松尾教授が当選され、一番の盛り上がりとなりました。



りとなりました。

会の終盤には花束贈呈があり、その後、卒業生・教職員全員が肩を組んで大きな輪となって校歌斉唱がありました。

締めは卒業生代表による挨拶の後、参加者一同での記念撮影を行い謝恩会は盛会に終了となりました。



このコーナーでは、本学の学生さんにお気に入りの景色や場所、食べ物など、自身の学生生活を充実させてくれる“イロイロ”を紹介してもらいながら、将来の夢にも迫ります。九州歯科大学ならではのコアな情報や共感する夢もあるかも!?



歯学科3年 くりはら しんいちろう 栗原 慎一郎さん My Happy Time 阿蘇の風景



地元、阿蘇の風景

僕のお気に入りは、出身地である熊本のア蘇の風景です。長期休暇で帰省するたびに地元の友達とドライブに行き、海や山などの自然を楽しんでいます。大学生となり様々な場所に行くことができるようになったことで、改めて自分の地元の良さを知ることが出来ました。

現在も小学生の頃から始めた柔道を大学のクラブ活動として続けており、大学の勉強の合間に練習やトレーニングをしています。大学の勉強は大変ですが、文武両道で日々精進していきたいと思っています。



歯学科3年 こうや ひろき 合屋 宏紀さん My Happy Time 美術館



美術館 (国立西洋美術館、東京都)

私のお気に入りは「美術館」です。写真は国立西洋美術館で、全日本歯科学生総合体育大会で東京に行った時のものです。西洋の有名画家の絵画や迫力ある彫刻がたくさん展示されており、時間を忘れ没頭してしまうほどです。芸術に興味なかった私ですが、今では画家の御業に魅了され、絵画を楽しめるようになりました。是非一度お近くの美術館へ足をお運びください。

大学では弓道部としてクラブ活動と勉強を両立しながら、日々の生活を楽しんでいます。学生生活の中で出会った仲間と同じ目的に向かって助け合いながら、信頼できる歯科医師を目指して頑張っています。



歯学科3年 そうま りき 相馬 瑠稀さん My Happy Time コストコ北九州倉庫店



学校から車で30分ほどで行くことができるコストコ北九州倉庫店。私のお気に入りの場所です。なんでも揃っているのでも一人で行くこともあります。ボリューム満点のお料理を並べてみんなでパーティーをするのはとても楽しいひと時です。将来は患者さんに信頼される歯科医師を目指します!



歯学科3年 かなだ あやか 金田 彩花さん My Happy Time 相棒のカメラ



シャッターチャンス

私のお気に入りの休日の過ごし方は、相棒のカメラを片手に色々な場所へ出かけることです。最近新たな相棒のカメラが増え、写真を撮りたい意欲が高まっています。写真部にも所属し、友人や先生方、家族などの周りの人たちに恵まれているおかげで、とても充実した大学生活が送れています。患者さんに信頼される歯科医師になるため、まずは身近な人に信頼される人になることを目標に、日々努力しています。



歯学科2年 ながと りな 永友 里奈さん My Happy Time 小説「図書館戦争」



小説「図書館戦争」ロケ地(北九州市立美術館)

私のお気に入りは「図書館戦争」という小説です。北九州には映画版の図書館戦争のメインとなる撮影地がいくつかあります。休日には撮影地巡りをして北九州を満喫しています!

私は将来、患者さんに寄り添い、患者さんが自信を持って笑えるようにサポートできる歯科医師になりたいです。

Close-up 大学関連情報

入学から卒業までの課程における学業成績最優秀者として学長賞を受賞した学生に、受賞の感想を伺いました。

令和5年度卒業生2名が、第21回学長賞受賞の喜びを語る



歯学科6年
たてべ きらら
建部 姫羅々さん

この度は学長賞という名誉ある賞をいただきたいへん光栄であるとともに、このような機会をいただいたことで大学生活の振り返りができました。大学の講義や臨床実習では、基本の大切さ、患者さん一人一人に合わせた応用まで幅広く教えていただき、知識、知恵、実践と興味深く楽しく学べました。密度の濃い有意義な6年間を過ごせたのは、勉学に励みやすい環境が整っていたからです。それは、先生方、先輩、同期、家族のお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも本学卒業生であることを誇りに、また、励みに、歯科医師として社会に貢献できるよう一層精進して参ります。



口腔保健学科4年
にしこおり ののか
錦織 望々香さん

この度、学長賞に選んでいただき非常に光栄です。大学生活を振り返るととても早く感じます。入学当初はコロナの影響で不安も多かったですが、大学側は様々な配慮をしてくださり、快適に勉学に励むことができました。2年生からは専門的な分野が増え、歯科衛生士になるための知識を蓄え、3年生では1年間の登院実習で技術も磨くことができました。私は、口腔のみならず全身のことを熟知し患者さんに寄り添える歯科衛生士になれるように意識をして勉強と実習に取り組んできました。大学で学んだことを活かし、理想の歯科衛生士像に近づける様にこれからも努力を惜しまず働いていきたいです。

歯学科長 竹内 弘

大学からのお知らせ

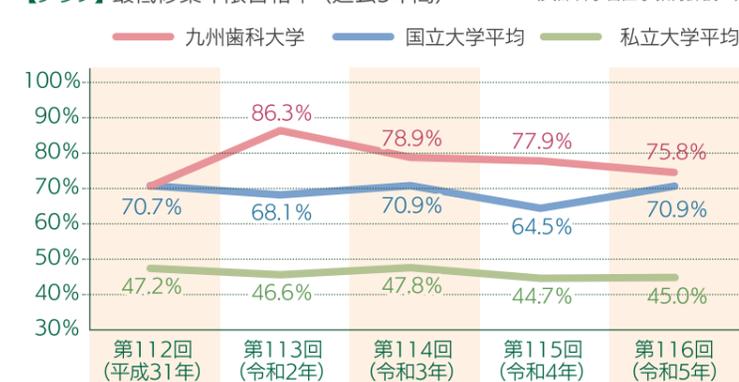
歯科医師国家試験の合格率について

令和4年度に本学歯学科を卒業した93名のうち、76名が第116回歯科医師国家試験に現役合格しました。例年3月の合格発表後は様々な媒体で合格率が報道されますが、今回は「合格率(対受験者数)」、「合格率(対出願者数)」、「修業年限での合格率」についてご紹介します。表は、厚生労働省と文部科学省が作成した資料から第116回歯科医師国家試験の結果についてまとめたものです。一般に報道される合格率は「合格率(対受験者数)」、すなわち「当日受験した人数に対する合格者数の割合」です。しかし、出願者数と受験者数に大きな差があることにご注意ください。この差は当日の体調不良などもありますが、卒業予定の6年生が11月頃に国家試験受験の出願を行ったものの、様々な理由で当日になり受験できなくなることで生じます。すると「合格率(対受験者数)」の値は大きくなります。そこで、実際に卒業予定だった6年生が全員受験していた場合の合格率を知りたいければ、「合格率(対出願者数)」を見れば良いわけです。さらに近年、「修業年限での歯科医師国家試験合格率」が注目されています。これは大学入学後に一度も留年することなく修業年限最短の6年間で卒業し、その年の国家試験に合格した学生の割合を表すため、大学における歯学教育の質を評価する指標の一つと考えられるためです。右のグラフのように本学は過去5年間、全国国立大学の平均を上回る数字で推移しています。これからも教職員一丸となって本学の特徴の一つである学生に寄り添った手厚いサポートを通じて学生諸君の自発的な学びを促すとともに、本学における歯学教育の質の向上に努めてまいります。

【表】第116回国家試験 新卒の各合格率の値 (厚生労働省 発表参考)

第116回	出願者数	受験者数	合格者数	新卒合格率(対受験者数)	新卒合格率(対出願者数)	修業年限合格率
九州歯科大学	93人	93人	76人	81.7%	81.7%	75.8%
国立大学合計	548人	545人	440人	80.7%	80.3%	70.9%
私立大学合計	1741人	1280人	966人	75.5%	55.5%	45.0%

【グラフ】最低修業年限合格率(過去5年間) (文部科学省医学教育課調べ)



令和5年度に退職を迎えた教授からのメッセージ

明るい未来を信じて



口腔再建リハビリテーション学分野
ほそかわ りゅうじ
細川 隆司 教授

定年による退職にあたって、一言ご挨拶させていただきます。私が教授として広島大学から赴任してから21年が経ちました。この間、ほぼ毎年のように文科省などから科学研究費補助金を獲得でき、また、学会活動では日本補綴歯科学会の副理事長、日本口腔インプラント学会の理事長、日本歯科医学会の常任理事などを拝命させて頂きました。これも本学での研究、とりわけ優秀な大学院生の活躍と、学内での共同研究の成果が評価されたものと自負しております。これからも本学の発展に微力ながら貢献できればと考えております。九州歯科大学の明るい未来を祈念して、稿の結びと致します。

期待すること



歯科侵襲制御学分野
わたなべ せいじ
渡邊 誠之 教授

12年間ではありますがお世話になりました。最も衝撃だったことは学生が権利を主張し、物事を“白”か“黒”で判断する特異な世界観でした。本学の教員の實力は学生の入学時の学力よりも国家試験合格率が高いことで示されています。本学において教育こそが今後生き残るための唯一の方法だと理解しています。一方、医療人の最終目標は患者に貢献することです。知識・技量不足は大罪です。生体の機能・病態を反復して学習する教育システムの構築が必要です。現代の医療は数多くの専門家・専門医の複合体で成り立っています。多くの患者の役に立つ口腔医療の専門医になってほしいと願っています。

お世話になりました



外科学分野
なかしま ひであき
中島 秀彰 教授

九州歯科大の外科学分野に赴任して15年が経ち、定年を迎えることになりました。近年多くの大学病院で、医学部と歯学部との垣根が取り払われ、歯科医にも全身医学の知識や素養が求められています。在任中にこれらを十分に伝えきれなかったのが、歯科医を目指す若い学生さんには、以下の意識を持ち、飛躍して欲しいと思います。
①最新の標準歯科治療を身につけるために知識をアップデートする。
②最低限の医科の知識を持ち、口腔内だけでなく全身を診る。
③安心安全な歯科医療を実践する。
④常に疑問を持ち、解決の為に考える。
⑤国内外に視野を広げる。

内科で11年、口腔保健学科で14年



多職種連携推進ユニット
そのき かずお
園木 一男 教授

1999年に本学内科学講座に赴任以来、歯学科生に内科学(特に内分泌・代謝)を通して全身疾患を理解してもらおうと共に、当院の内科診療は歯科診療のためにあるとして、内科外来の診療を担いました。2010年の口腔保健学科創設以後は歯科衛生士の養成に携わり、全身疾患の理解においては、歯学科生と同等の知識を獲得させ、卒業後、多職種連携の中で歯科医師と協働して歯科診療にあたることを目指して来ました。これからの歯科衛生士は看護師のように患者管理、業務、職域が広がっていくことと存じます。その際の一助になればと願っております。

コラム
No.07
おくちのお話

**「歯の治療で使う
特別なセラミックス、
ジルコニアについて」**

歯医者さんがむし歯を治すときに、きれいな見えるようにするためにセラミックスという特別な材料を使うことがあります。歯医者さんが使うセラミックスにはいろいろな種類がありますが、その中でも「ジルコニア」は特に注目されています。ジルコニアは、「白い金属」とも呼ばれ、硬くて壊れにくいという特徴があります。さらに、体に優しくアレルギイを起こしにくいこと、自然な歯によく似ていることが大きな長所です。これらの特長を活かすと、大きな力がかかる奥歯でも、セラミックスで作ったかぶせ物が見えるようになります。そして、ジルコニアのおかげで、10年前までは難しかった金属を一切使わないきれいな治療ができるようになりました。今では、ジルコニアは歯の治療に欠かせない材料となっています。

ジルコニアは、身の回りでもよく使われています。例えば、その硬さを活用したセラミックス製の包丁です。また、ヒアスやネックレスに使われている「人工ダイヤモンド」もジルコニアから作られています。ジルコニアは高い屈折率を持つため、ダイヤモンドのようにキラキラ輝くことができます。さらに、ジルコニアは電子部品にも使われています。代表的なものは、車のエンジンや制御する酸素センサーです。ジルコニアがなければ車のガソリンエンジンは動かないのです。身の回りでも使用されているジルコニアは見た目は歯医者さんが使うものと違いますが、材質は歯科で使用されるものと同じです。ジルコニアは歯医者さんの仕事だけでなく、私たちの生活を支える大切な材料なのです。



生体材料学分野 池田 弘

九州歯科大学基金のお知らせ

**九州歯科大学基金へ
多大な貢献をいただいたことをご報告します。**

本学の「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」をはじめとする数々の教育研究目標を達成するために、「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業を展開しています。

本事業の支援を目的として、九州歯科大学基金を創設し、令和6年3月31日までに、皆さまからいただきました寄付の申し込みは、法人・団体様より157件で寄付額9,758,428円、個人様より207件で寄付額5,960,020円となりました。日頃より温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げますとともに、ここにご報告いたします。

■【「国際的口腔保健活動フロントランナー育成」事業の取り組み】■

1. グローバルな視野をもった医療人育成支援 / 海外の大学との連携強化および国際交流活動推進プログラムの運用支援
2. 学生・大学院生・留学生の奨学金の確保 / 大学における奨学金の効率的かつ実効的な運用支援。大学が主体的に運営するための基金の確保
3. 大学主導のリカレント教育の強化 / あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援

ご寄附に関する窓口

公立大学法人 九州歯科大学 九州歯科大学基金事務局(担当:総務課)
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1
TEL:093-285-3008 FAX:093-582-6000

**NHK北九州 “ハレキャン”で
本学が紹介されました!**



2024年1月18日(木)18時30分~19時00分放送のNHK「ニュースブリッジ北九州」番組内のコーナー「ハレキャン」において、本学が紹介されました。

実際の放送映像はこちら
(NHKニュースWEB)



番組で放送されなかった
内容も盛り込まれたWEB
記事はこちら
(読むNHK)



編集後記

ご愛読、誠にありがとうございます。広報誌Platys7号は、「国際交流」や「クラブ活動」など、学生の活動を主体とした誌面構成にしました。本学学生が、キャンパス内にとどまらず、海外や学外で充実した日々を過ごしていることを感じて頂けますと幸いです。今後も大学のさまざまなイベントや、学生たちの素晴らしい成果などを広くお伝えしたいと考えております。そのためにも読者の皆様とのコミュニケーションを大切に、より魅力的なコンテンツをお届けできるよう努めてまいります。ご意見やご感想、どしどしお寄せ下さい。

広報部会長 有吉 渉

【表紙写真について】

表紙の写真は、特集のランシット大学との対談風景です。会場は本学附属図書館内にある「アクティブラーニングスペース」にて行われました。緊張した雰囲気が始まった対談も時間が経つにつれ英語での会話が飛び交うようになり、真剣に聞き入る姿や時には笑い合う姿も見られました。対談後にはお互いの連絡先を交換し、記念に写真撮影をして終了となりました。

九州歯科大学広報誌「Platys [プラティス]」
読者アンケートにご協力をお願いします。



左記QRコードよりアンケートフォームを開いてご記入ください。

いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

九州歯科大学の情報は、
Web上でも
ご確認ください。



大学HP



大学広報

